

香港でいま話題の最新観光スポット

香港政府観光局

今年注目を集めている香港のスポットを2つ紹介いたします。

1つ目は、「カイタック スポーツパーク」です。1998年まで香港の空の玄関口であった旧カイタック空港（啟德空港）は、皆様ご存じの通り世界一着陸が難しい空港として有名でした。かつて滑走路だった場所は、2013年に大型客船が寄港できる「カイタック・クルーズターミナル」として生まれ変わりました。そして、周辺地域の再開発も進み今年3月に、「カイタック スポーツパーク」が誕生。観客席50,000席の香港最大のスポーツスタジアム「カイタック スタジアム」、屋内スポーツホール「カイタック アリーナ」、サッカーやラグビーの試合、トレーニング、学校の運動会にも使用できる「カイタック ユース スポーツグラウンド」、多目的イベントスペース「イーストビレッジ」など世界クラスのスポーツエンターテインメント施設に加え、食事、遊び、ショッピング、そしてリラックスできる様々な施設を有する今最も注目エリアの一つとなりました。

そして、もう一つ今注目を集めている場所が、映画のセット展「九龍城寨：映画の旅」です。香港で大ヒットし、今年1月に日本で公開された香港映画『トワイライト・ウォリアーズ 決戦！九龍城砦』。口コミで人気に火が付き、5月には日本での興行収入が5億円を突破する人気映画となり

ました。この映画のセット展が5月より、映画の舞台となった九龍城寨の跡地である九龍城寨公園で開催されています。映画の主要なシーンを再現するこの展覧会は、単に映画のシーンや、1980年代の九龍城砦のユニークな特徴を忠実に再現するだけではなく、香港の映画美術スタッフの創造性と卓越した技術を紹介する場として日本でも話題を呼んでいます。なお、このセット展は、今後3年間開催される予定で、入場は無料です。ただし、会場はさほど広くないため、整理券を発行して入場を制限している場合がありますので、時間には余裕をもってお出かけください。



九龍城寨公園で開催されている「九龍城寨：映画の旅」展

2025年9月 発行（禁無断転載）

目次

香港でいま話題の最新観光スポット	1
新潟でアジアフォーラムを開催	2
香港日本人学校・香港校の思い出 第1回	4
私と香港ビジネス	6
連合会・各協会便り	
全 国：香港の魅力が詰まった本のイベント「香港ブックフェア」	7
東 京：ドラゴンボート感想／ビジネス座談会を終えて	8
関 西：香港貿易発展局のマーガレット・フォン総裁主催の夕食会	
文化部セミナー昼食懇親会開催	
アジアフォーラム2025新潟参加	9
中 部：新体制発足から1周年をむかえて	
アジアフォーラム（新潟）参加報告	10

九 州：若き国際人材の架け橋	
—香港大学生による日本企業インターンシップ2025	11
山 形：山形が育む「紅い宝石」と「とろける甘み」	
—香港を魅了する山形県産フルーツの今	12
北海道：新規法人会員企業ご紹介	13
宮 城：2025総会・セミナーを開催	14
沖 縄：香港の小学生との交流会を開催	
アジアフォーラム in 新潟に参加	15
広 島：香港マーケットイン型食品商談会	
アジアフォーラム2025 in 新潟	16
新 潟：「アジアフォーラム2025 in 新潟」開催にあわせて通常総会を挙行	17
高 知：新会長就任	18

新潟でアジアフォーラムを開催

新潟日本香港協会 事務局 長部 未奈

去る2025年5月21日から23日にかけて、「アジアフォーラム2025 in 新潟」が開催されました。本フォーラムは、2023年12月の香港フォーラム開催時に吉田会長が新潟開催に名乗りを上げてから、約1年半をかけて準備を進めてきたものです。事務局一同、満を持しての開催となりました。当日は、日本国内に加え、アジア諸国・地域およびその他の国々から総勢224名が新潟に集まり、国際色豊かな会となりました。地域別の参加者内訳は以下の通りです。

- 日本（176名）
全国連合会2、東京23、関西5、中部3、九州2、北海道1、宮城9、沖縄7、広島6、高知2、新潟116
- アジア（43名）
香港12、カンボジア3、韓国1、マレーシア11、フィリピン1、シンガポール7、台湾4、タイ1、ベトナム3
- アジア以外（5名）
カナダ1、ニュージーランド2、アメリカ1、イギリス1

◆風情と笑顔があふれた前夜祭（Welcome Dinner）

初日の21日は、新潟市・古町に位置する「ホテルイタリア軒」にて、前夜祭が開催され、フォーラムの幕が開けました。古町は、信濃川と日本海に囲まれた新潟島に位置し、江戸時代より商業と花街文化が栄えた歴史と風情がある地域です。会場となったイ



吉田会長挨拶

タリア軒は、日本で初めてミートソーススパゲティを提供したことで知られ、150年を超える歴史を持つ老舗洋式ホテルとして親しまれています。開会挨拶に立った吉田会長から始まり、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本主席代表の乾杯の発声、そして昨年も新潟を訪問された香港ビジネス協会世界連盟デニス・チュー副会長による歓迎の言葉が続きました。この夜は、新潟の伝統文化である古町芸妓による舞と、関西日本香港協会会員の海賀千代氏による歌唱パフォーマンスが披露され、華やかな雰囲気に包まれました。昨年12月の香港フォーラム以来の再会を喜ぶ声や、今回初めて顔を合わせた参加者同士の交流も盛んに行われ、終始活気にあふれたひとときとなりました。最後は、日本香港協会全国連合会佐藤征洋会長の閉会の挨拶にて締めくくられ、翌日からの本会議に向けて期待が高まる中、盛況のうちに終了いたしました。

〈古町芸妓について〉 新潟・古町芸妓は、200年以上の歴史を持つ伝統文化で、かつて京都の祇園、東京の新橋と並ぶ花街として栄えた新潟古町において受け継がれてきました。京都では見習い芸者を舞妓と呼ぶ制度がありますが、古町ではその制度ではなく、修業の初めから芸妓としての道を歩みます。成熟した芸と所作を重視し、地域に根ざした文化の担い手として、現在も新潟の文化的アイデンティティの一端を担っています。



古町芸妓の舞

◆アジアフォーラム国際会議

(Asia Forum Internal Meeting)

22日の午前、朱鷺メッセ・スノーホールにて「アジアフォーラム インターナルミーティング」が開かれました。カンボジア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナムの計9カ国・地域から約120名が出席し、国際連携の強化に向けた対話が行われました。会議では、2025/26年度の香港ビジネス協会による新たな取り組みを中心に、各国の代表者が活動報告を行い、香港貿易発展局のプロモーション計画や年末に予定されている香港フォーラム2025、さらには次回アジアフォーラムの開催地に関する議論まで、多岐にわたるテーマで活発な意見交換が繰り広げられました。本会議は、今後の経済・文化交流を加速させる契機として評価され、午後の市内視察ツアーや記者会見を含め県内外のメディアにも広く報道されました。新潟の新たな可能性が強く印象づけられた一日となりました。



インターナルミーティング代表者集合写真

◆地元の美味を味わう昼食会（Networking Luncheon）

同日昼、朱鷺メッセに直結する「ホテル日航新潟」の4階朱鷺の間に、新潟産の食材をふんだんに取り入れた昼食会が行われました。新潟市の食と文化に触れていただくことを目的に、各種ブース展示を通じて地域の魅

力をご紹介しました。会場には新潟の夏の風物詩である甘みと香りが特徴の枝豆「茶豆（ちゃまめ）」の試食コーナーや、新潟市の花を使ったフォトスポット、「雪室（ゆきむろ）」と呼ばれる天然の雪を活用した商品紹介や雪室で熟成された豆の雪室珈琲が提供されました。新潟市の地酒を取り揃えた日本酒テイスティングコーナーは非常に人気で、皆銘柄ごとの違いを楽しみながら飲み比べをしました。デザートには新潟の代表的な郷土菓子「笹団子」の実演と体験時間を用意し、参加者は伝統の技に触れながら和やかな時間を過ごされました。

◆新潟の魅力にふれる市内視察バスツアー

昼食会の後、98名の参加者がバスに乗り込み、新潟市内の歴史と文化を訪ねる視察ツアーが始まりました。初めに足を運んだのは、大正時代の風情を色濃く残す「旧斎藤家別邸」。四季折々の表情を見せる日本庭園と、洗練された数寄屋造りが調和する邸宅は、国の登録有形文化財に指定されており、新潟の豪商文化を伝える貴重な空間です。続いて訪れた「今代司酒造」では、江戸時代に創業された老舗酒蔵の歴史に触れながら、趣深い蔵内を見学。全量純米仕込みの日本酒を試飲し、展示された昔の看板や酒造りの道具の数々から、時を遡ったような見学を楽しみました。その後は、地元グルメと特産品が集まる「ピア万代」へ。市場の活気と新潟の豊かな海の幸を堪能し、ショッピングにも笑顔がこぼれました。ホテルへ戻る前には、地上125メートルにある展望室に立ち寄り、眼下に広がる新潟市街と日本海の大パノラマを一望。都市と自然の両面を持つ新潟の姿に、深い印象を残しました。

◆絆を深める交流会 (Hong Kong Night)

22日夜、朱鷺メッセのスノーホールにて、交流会 Hong Kong Night が開催されました。このイベントは、香港特別行政区政府駐東京經濟貿易代表部 (ETO Tokyo) と新潟日本香港協会の共催により、新潟県・新潟市の後援を受けて実現したものです。会場には、ETO ウィンサム・アウ首席代表をはじめ、花角英世新潟県知事、中原八一新潟市長、香港ビジネス協会世界連盟マーガレット・ウォン会長ら、国内外の来賓が集い、華やかな開会挨拶と歓迎の言葉が交わされました。特別講演では、香港空港管理局のフレッド・ラム会長が「香港国際空港：香港と世界をつなぐ」と題して、香港の国



鏡開きによる乾杯

際的な役割と将来への展望について語り、出席者の関心を集めました。その後の鏡開きでは、登壇者9名が一齊に樽を開き、日本らしい乾杯の合図とともに会食がスタート。

配席は国際色豊かに組まれ、英語と笑顔が飛び交うなごやかな空間となりました。会場では、食事とともに新潟の日本酒を飲み比べできる特設ブースが設けられ、多くの参加者がその味わいを楽しみました。さらに、アルビレックス・チアリーダーズと万代太鼓華龍による迫力あるパフォーマンスが披露され、大きな歓声に包まれました。クライマックスには、長岡花火のプロジェクトマッピングが天井一面に映し出され、音と光の共演が胸を打つラストシーンとなりました。イベントの最後には、新潟の味覚を代表する地元企業による米菓として、株式会社栗山米菓の「ばかりけ」、一正蒲鉾株式会社の「カリッこいわし」、そして亀田製菓株式会社の「ハッピーターン」が手渡され、新潟の味わいを手土産に参加者はそれぞれの帰路につきました。このアジアフォーラムが、国境を越えた交流と、新潟の魅力を伝えるかけがえのない機会となっていれば心から悦ばしく思います。

〈平和と希望を灯し続ける長岡花火〉 長岡花火は、1945年の空襲で命を落とした人々への鎮魂と、戦後復興への願いから生まれました。以来、長岡の人々が受け継いできたその思いは、やがて日本を代表する花火大会として全国に知られる存在となりました。例年8月開催の長岡まつりにて打ち上げますが、今回のフォーラムでは特別に花火の感動をプロジェクトマッピングという形で再現。参加者の心に静かな余韻を残しました。



長岡花火プロジェクトマッピング

◆大地の恵みにふれる一日 魚沼・湯沢バスツアー

23日は、県内屈指の米どころ・酒どころとして知られる魚沼・湯沢エリアへの日帰りエクスカーションが実施され、国内外から59名が参加しました。発酵食文化を学ぶ魚沼醸造では、米糀づくりの現場を間近に見学。続く魚沼の里では、自然に包まれながら日本酒の試飲やおみやげ選びを楽しみました。ツアーの締めくくりは、壮大な岩肌と清流が織りなす清津峡へ。新潟市内とはまた異なる自然の迫力に触れたことで、参加者にとって忘れがたい一日となったことを願っております。

香港日本人学校・香港校の思い出 第1回



香港日本人学校・香港校校舎

香港日本人学校の香港校が2026年3月に閉校になり、新界の大埔校に併合されることになった。香港校は1974年に開校。それまでの日本人学校は銅鑼湾のオフィスビル・タワーコートの2フロアを使用したもので、校庭はなく運動もままならなかつた。香港校は、香港日本人学校で初めて学校の校舎らしい建物となつた。

現在の香港日本人学校の児童・生徒数は小学部282人、中学部99人（2025年6月）。ピーク時の小学部1711人（1996年）、中学部487人（1997年）から大幅に減少している。

香港校の閉校に伴い、かつて同校舎に通つた児童・生徒、そして赴任していた先生に思い出を語ってもらつた。

近藤晴彦さん

► 1976年（小5）～77年（中1）



「えっ、ここに降りるの？ビルがいっぱい飛行場なんか見えないよ」。これが、私が香港に着いた時的第一声でした。当時の空港は悪名高き？啓徳空港で、その後街のあちこちで、頭上を通る飛行機の低さに驚かされたものです。住んでいたマンションは、九龍のWaterloo RoadとPrince Edward Roadの角で、ベランダからライオンロックが望めましたが、飛行機は山をかすめるように着陸体制に入つていきました。

さて、惜別の香港校です。私は日本人学校の環境がとても気に入つてきました。まずはスクールバス通学。九龍からですから海底トンネルを通ります。海の中ですよ。そして校舎は山の中腹なので、ちょっとしたワインディングロードも上ります。まさに海に山にで、毎日がドライブ気分でした。山といえば、校舎の裏側のうっそうとした森と川。どこか避暑地の風情がありました。そんな風景が望めた半地下、半屋内のプールも懐かしいです。しかし、私が小学6年の夏は水不足で、水泳の授業が途中で中止になつた記憶があります。

暑い夏でも、サッカーやソフトボールをやりました。その際に使つたグラウンドは、今ではクリケットクラブになつてしまつたところですね。そこへ行くには、崖のような所を上がって行かなければならぬのですが、コンクリートで固められていた法面の登り降りもスリルがあつて好きでした。ただ、あの法面は道でもないのに通つてた？グラウンドは勝手に使ってた？そんな訳はないですが、子供だった当時の私にはそんな風に思えてしまう、なんとなくアバウトな雰囲気が学校運営や現地の方との交流にあったような気がします。あの頃は、毎日学校に行くことが楽しく、私はたつた1年半しか在住しませんでしたが、今も同窓会で一番戻りたいと思う時代です。

追伸：私には2歳上の姉がおりましたが、昨年の夏、急逝しました。その姉は日本帰国が決つた時は、悲しくて寂しくて一晩中泣いていたそうです。姉弟ともに大好きな香港、そして香港日本人学校でした。

野村奈穂子さん（旧姓・向来）

► 1975年（小6）～79年（中3）



1975年6月、密集したアパートすれすれに飛ぶ飛行機の中で今まで見たこともない光景に驚きながら不安いっぱいで私は香港啓徳空港に着きました。数日後には、山の中腹に建つ香港日本人学校に転校しました。初日に温かい歌で迎えられ、すぐクラスに馴染むことができました。

当時の小学部は、英国人のマーシャル先生による英語の授業がありましたが、授業中に意味がわからず、クラスがシーンとすることが時折ありました。私は香港の前はフィリピンのアメリカンスクールで学んでいましたので、勇気を出して「先生はこのように言っています」と発言し、皆が困っていることを先生に伝えました。これが私の初めての通訳体験でした。当初は慣れないブリティッシュイングリッシュでしたが、新任のスウィフト先生に代わられた頃には発音の違いがわかるようになりました。長文速読訓練では早く上級レベルに到達したくて頑張った記憶があります。通訳の手伝いは校外学習や文化祭などイベントでもありました。こうした経験で通訳としての自信がつき、現職の医療通訳にもつながっています。香港のテレビ局からインタビューを受けたことも忘れられない思い出です。

私は今、成田空港近くの病院で院内通訳をしています。昨春、高熱の幼児を抱えた若い香港の家族が来院して救急科で座薬を処方され、「香港ではこんな治療をしない」と言うお母さんに「日本では普通なのよ。フライトに乗れなくて残念だったけど、もう少し日本の桜を楽しんでね」と声を掛け見送りました。翌日、そのお母さんから「香港に無事着きました。子供も元気です。ありがとう」とのメールが届きました。「もう到着するなんて香港って近い！」と感じるとともに、ビクトリアハーバーの青い海や通訳の原点である日本人学校を懐かしく思い出しました。思い出がつまつた香港校が閉鎖されるのは寂しいですが、大埔校と統合される香港日本人学校のますますのご発展とご繁栄を心よりお祈りいたします。



山田義介さん

► 1975年（小3）～78年（小6）

私が香港日本人学校に転校した1975年は、藍塘道（Blue Pool Road）に校舎ができて間もない頃で、まだ塗料の臭いがしていたことを記憶しています。

転入時に担任の先生が生徒に「彼が校舎内で迷子にならないよう、どの階に何があるのか、ちゃんと教えてやつてくれ」という趣旨の話をしてくれました。実際、この校舎は斜面に建設され複雑な構造ではありました。慣れてしまえば限られた面積を有効に活用した優れた建築であったと思います。特に校舎屋真ん中の吹抜は、開放感を創出していたのみならず、異なる階の教室の生徒の往来を見ることもでき、学校としての一体感を醸成させる良い構造でした。

日本人学校の特徴の一つとして、児童のほぼ全員が転校生であったことがあります。転校直後は「転入生」だと思っていた私自身、しばらくすると新たな転入生を受け入れる側に回っており、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」ではないですが、その中で学校としての伝統が守られるという、独特の空間を支えていたのがこの校舎でもあったのだな、と今でも考えます。

当時の私は下校すると専ら音楽の勉強をしており、学外の音楽コンクールに出場するなどしていました。香港日本人学校の制服で出場することが多く、日本人の出場者がほとんどいない中で入賞すると現地記者に囲まれて「それはどこの学校の制服なのか」などいろいろと質問され、紙面に載る機会も増えました。私はまだ小学生でしたが、このような形で香港日本人学校の認知度向上に少しでも貢献できたのであれば、望外の喜びです。

帰国の際に啓徳空港から飛び立つ飛行機の窓から香港日本人学校の校舎が見え、二度と目にはないであろう光景として見つめています。「行く春や鳥啼き魚の目は涙」の句が思い浮かびます。あの香港校がなくなると聞くと、多くの記憶が蘇りますが、大埔校でより輝かしい新たな歴史が刻まれることを祈念いたします。



八谷俊一郎さん

► 1976年～79年（派遣教員）

1976年4月12日、新築竣工したばかりの学校に赴任した当時、幼稚部100人、小学部571人、中学部78人の中規模校でした。建物内にある校庭の掲揚台には、イギリス国旗、香港の旗、日本の国旗が掲揚され、「ここは外国だ」と実感したものです。

当時、日本の経済は右肩上がりで、赴任時の1米ドル=308円は3年後の帰国時には180円前後まで円高が進みました。日本経済の発展に伴い、香港でも日本人の児童生徒が急増し、帰国時には、幼稚部166人、小学部860人、中学部182人と膨れ上がり、世界でも有数の大規模校となりました。当然、教室数が足りなくなり、3階建てから4階建てに増築する工事も行われました。

興味深いのは、日本では1学級の定数が決まっているので、教室の広さはどのクラスも一定ですが、香港は、1人当たり10スクエアフィートと決まっているので、教室の広さに応じて児童生徒の数が決まるということでした。中学部の教室は、小学部の教室より狭かった気がします。校庭は狭く、ドッジボールなどの運動をすると、必ずといっていいほど、ボールが隣のフラットに飛び込みました。その度に住人から怒鳴られるので、ボールを取りに行くのは廣東語が話せるT君と決まっていました。広さを必要とするソフトボールや学級リクレーションは、学校裏手にある高台の広場で行いました。体育館では、小中学部の音楽会や中学部の夏の宿泊学習、弁論大会、英語の暗唱大会などがありました。文化祭での生徒によるエレキギターの演奏は圧巻でした。当時売り出し中の世良公則さんの曲でした。ただ、エレキギターの演奏で、隣のフラットから苦情が来ないかと冷や冷やしたのも事実です。

こうした子供たちと楽しく過ごした思い出が多い日本人学校が新界に移転するというニュースに接し、大変淋しい思いをしています。香港日本人学校は、私にとって第二の心の故郷です。たくさんの思い出を作ってくれたことに感謝します。再見、香港日本人学校！



スクールバスの前に立つ近藤さん



修学旅行でイギリス人から話しかけられ通訳する野村さん（右）



音楽コンクールで九龍獅子會盃を受ける山田さん



授業をする八谷さん（1977年の中1担任時）

[年表]

- 1966年 ● 香港日本人学校開校（銅鑼湾のタワーコート）
- 1971年 ● 新校舎（香港校）建設準備委員会設立
- 1974年 ● 新校舎（香港校）完成。タワーコートから移転
- 1979年 ● 校舎4階に8教室を増設
- 1982年 ● 中学部を北角に新設し移転
- 1997年 ● 大埔校開校。これに伴い元の校舎は香港校に
- 2018年 ● 中学部が校舎を閉じ、香港校に移転
- 2026年 ● 香港校閉校（予定）

私と香港ビジネス

NPO法人日本香港協会（東京）事務局長 近藤 修

私は40代前半の1995年4月に第一勧業銀行（以下DKBと略す。現在のみずほ銀行）香港支店に赴任した。当時香港には、支店の他、証券現地法人や本部部門もあり、日本からの派遣行員は約50名。そのうち約30名が支店に派遣。支店の香港人スタッフは250～260名。支店長は役員で、私は3人いた副支店長の1人として、営業面では日系企業取引、プライベートバンキング並びに営業管理を管掌し、管理面では人事・総務並びに資金為替取引のポジション管理を行うミドルオフィスを管掌。その他2人副支店長がいたが、1人は非日系取引営業担当、もう1人は事務等バックオフィスを担当。

日系企業取引関係では、日系企業が香港に進出する場合のアドバイスや資料提供、更には、中国進出のゲートウェイとしての香港の役割（当時は中国に進出した日系企業の多くは輸出入の決済口座を香港の銀行に開設していた。）、並びに中国に生産拠点を作る場合の課題等（独資か生産委託か）をアドバイスした。プライベートバンキング部門（PB部門）においては、台湾等の華僑の富裕層のお客様も多く、預かり資産もかなりあったが、このPB部門をDKBスイス現法に移管しようという話が持ち上がり、スイスで打ち合わせを行った。又、当時日本のスーパーの大型倒産があり、債権回収に向けたホワイトナイト（ファンド）との交渉等、多岐にわたる業務があり多忙を極めた。



執務中の支店内

当時の香港支店は設立から10年程度経っていたが、地場企業向けシンジケーションや中国向け（CITIC等）の融資も増加してきており、DKBの海外支店の中でもニューヨーク支店に次ぐ収益基盤を持つようになっていた。役員支店長のもと業務が拡大していく中で、1997年7月1日の香港返還日を迎えた。

私は人事担当副支店長として、カナダの永住権を取得したい香港人スタッフのため、DKBカナダ支店に短期勤務を受け入れてくれるよう依頼したことがあった。当時カナダの永住権を取得するためには、カナダで勤務した実績を一定の期間何回か持つことが条件となっていた。また、カリフォルニア州のヨセミテ国立公園内で自動車事故のため、亡くなった香港人行員を荼毘に付す依頼をDKBロサンゼルス支店に依頼するなど、通常業務以外の対応にも追われた。香港では両親より先に亡くなるのは、親不孝であり忌み嫌うことから、両親は遺体の引き取りにロスに行くことを拒んだため。

人事評価の時は日本国内でもそうだが、各課長（日本人課長・香港人課長）は自分の部下を昇給・昇格させたいので、どうしても評価が甘くなり、各課の行員を公平・適正に評価するのが難しく結構苦労した。

総務関係はベテランの日本人課長が上手く采配してくれており、大きな問題もなく運営できた。

日本からのビジネス来訪者も多く、昼も夜もお客様との会食が続くことも多かったが、幸い広東料理が好きだったこともあり、全く負担にはならなかった。自分がメンバーであったHong Kong Bankers ClubやDynasty Clubでお客様と会食することが多かったが、時には西貢までお客様を案内して、生簀料理を食べた。料理に関して一点困ったことがあった。日本からのお客様から清朝時代の宮廷料理「満漢全席」を経験してみたいと言われ、探したが当時本格的にやってくれる店を探すことが出来ず、仕方なく略式の「満漢全席」を味わっていただいたのも懐かしい思い出である。

忙しい中でも仕事が終わった後に、若い仲間とカラオケに行き遅くまで飲んで、歌ったのをつい昨日のように思い出す。また、年に何回かは皆でゴルフバッグを担いで羅湖から、あるいはマカオ経由（マカオで1泊）で中国に入り、惠州や珠海でゴルフをやったことも楽しい思い出の一つ。

香港返還を挟んで計4年香港に単身赴任して、今でも色々なことが想い出される。私は30代の時（1983年～1991年）8年間ドイツ（留学・勤務）に住んでおり、1989年のベルリンの壁の崩壊に立ち会った。また、香港においては、中国返還に立ち会うことができた。昨年12月に香港フォーラムに出席のため25年振りに香港に行つたが、その時、往時の香港人スタッフが6～7人集まってくれて一緒に食事をした。その時私から返還後に皆さんに大きな変化があったかと聞いたの

に対して、一瞬戸惑った感じで「大きな変化はないよ」と少し元気のない声で返事があった。昔の香港支店の同僚や香港の皆さんのが、かつてのように自由でエネルギーッシュな生活ができることを願つてやまない。



本部役員と香港支店受付にて



若手同僚が開いてくれた帰国前夜の送別会。日本料理屋の店主と奥様。結局その日は朝3時頃まで飲んでいて、帰国の航空機に乗り遅れそうになった。筆者はワイシャツ姿



連合会・各協会便り

2025/9 ● No.110

NATIONAL

全国連合会

NPO法人日本香港協会（東京）広報委員 隅田 香織

香港の魅力が詰まった本のイベント 「香港ブックフェア」

7月16日、今年で35回目を迎える「香港ブックフェア」を訪問してきました。毎年、灣仔の香港コンベンション＆エキシビション・センターで開催されており、今年は7月16日～22日に行われました。「読書好きのためのイベント」という印象を持たれがちかもしれません、実際に足を運んでみると、その内容のスケールの大きさに驚かされました。

香港という街に関心のある方、文化に触れたい方、そして旅行で訪れている方にとっても十分に楽しめるコンテンツが揃っており、新たな発見があるイベントだと感じました。



会場内の撮影スポット

今回初めて訪問した私は灣仔駅ではなく、2022年に新たに開業した會展駅を利用して会場に向かいました。ブックフェアは香港をいつもとは違う角度から楽しめる貴重な空間でした。会場に一歩足を踏み入れると、まず目に飛び込んでくるのは、各出版社や書店のブースがずらりと並ぶ光景です。大手書店、人気書籍や新刊書籍の紹介コーナーはもちろん、古書を専門に扱う店舗や、香港の交通機関に特化した書籍を揃えたマニアックな店、香港料理のレシピ本を集めた店、学生向けの学習参考書を揃えた店など、そのジャンルは非常に多岐にわたっていました。来場者の興味に応じた多彩な切り口が用意されており、見て回るだけでも飽きることがありません。

ブックフェアで扱われているのは本だけではありません。香港の風景や歴史をモチーフにした雑貨やステッカーナリ、ブックフェア限定販売の書店オリジナルグッズなどもありました。なかでも特に人気だったのが、当日発売されたばかりの「香港限定ちいかわグッズ」。現地でも爆発的な人気を誇り、あっという間に売り切れているそうです。もうとにかく「どこから見ようか」「何を買おうか」と歩いているだけで心が躍りました。

会場を歩いていて印象的だったのは、手慣れた様子で大きなスーツケースを引きながらブースを回っている人の多さです。その姿からは「買う気満々」な熱気が感じ



本だけではなく雑貨も人気

られ、地元の人々にとってもこのイベントがいかに人気で、楽しみにされているかが伝わってきました。

会期中は多くの書籍が割引価格で販売されており、お得に手に入れられるのも、多くのリピーターを引きつけている理由のひとつだと思います。私自身も多くの書籍を手に取って一冊一冊確認し、慎重に吟味した末に購入したのが『老店香港』という本です。この本は、長年香港で営業してきた老舗店を紹介しており、飲食店や乾物店、理髪店など「老舗」と呼ばれる店がイラスト付きで掲載されています。

近年、香港では長年続いてきた個人商店や飲食店の閉店が相次いでおり、街の記憶が急速に失われつつあります。そのような中で、この書籍は既に姿を消してしまった香港の風景を懐かしむための貴重な一冊になるだろうと感じました。

当日は気

温 35 度近い真夏日でしたが、外の暑さを忘れ、本の世界に没頭しながらブースを回っているうちに、気づけば 4 時間以上も会場を歩き回っていました。屋内イベントということもあり、香港



多くの書籍が割引販売

の猛暑期や天候の不安定な時期でも安心して楽しめるアクティビティとして、観光客にもおすすめできます。来年以降の開催にも、ぜひ注目していきたいと思います。



連合会・各協会便り

TOKYO

NPO法人日本香港協会（東京）会員 一ノ瀬 勝美

NPO法人日本香港協会

ドラゴンボート感想

6月1日、今年も日本香港協会ドラゴンボートチームの一員として横濱ドラゴンボートレースに参加させて頂きました。

ドラゴンボートは中国に起源を持つ伝統行事で、旧暦5月に水難除けや豊作祈願として開催されます。近年は香港を起点として国際的な競技としても発展し、日本各地でも大会が開催されますが、横濱ドラゴンボートレースも1994年から開催される歴史ある大会です。

集合時間である6時50分に山下公園に行くと、鮮やかな螢光色のTシャツに身を包んだひときわ目立つ集団がいます。日本香港協会から飛龍艇と鳳凰艇の2艇で参戦するので約40名が勢揃いしていました。この皆さんのが今日一日共にドラゴンボートを漕ぐ仲間だと思うとテンションが上がります。集合時間よりさらに1時間半以上前から陣地設営をして下さった事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

集合後は出欠確認、諸連絡、体操、栗山隊長による漕ぎ方説明の後、練習乗艇がありました。ドラゴンボートに乗るのは初めてのメンバーが多く、緊張の瞬間です。お互い初対面の人々が殆どですが、「香港が好き」と言う共通点があるためか、直ぐにみんなで息を合わせてボートを前に進めることができるようになったと思いま



日本香港協会ドラゴンボートチーム

す。レース本番は、山下公園の観客からの声援を受けながら、氷川丸に向かって260mを漕ぎ切るものでした。惜しくも決勝進出は逃しましたが、飛龍艇、鳳凰艇共に1分30秒台の好タイムを叩き出し、一期一会のチームとしては大健闘でした。

香港に所縁のある方々と一緒にドラゴンボートを漕ぎ、さらにレース後の懇親会では横浜中華街で香港の街中で食べるような料理を食べることができて、とても楽しい1日を過ごすことができました。ありがとうございました。

事務局より…今回は飛龍艇・鳳凰艇に、下記企業にご協賛いただきました。ありがとうございました。

OOCL (Orient Overseas Container Line)、アーバンシステム、インターラジアジャパン、ケイブライト、田中コーポレーション (銀座喜記)

※順不同・敬称略

NPO法人日本香港協会（東京）副会長・ビジネス交流委員長 守永 俊一

ビジネス座談会を終えて

去る6月9日市ヶ谷の中華料理焼味庵において、ビジネス座談会を開催しました。イベントの目的は参加者（会員、非会員）のビジネスネットワーキングです。当日は40名の募集人員に対して42名の参加者にお集まりいただきました。日本で香港関係のビジネスに関わる方、香港系企業において日本でビジネスをされている方、これから香港に進出を企図されている法人の方、また香港から帰国されたばかりの方、元香港駐在の方など、多様な方々にお集まりいただき、大変賑やかで楽しい会となりました。



会の冒頭、日本香港協会連合会の佐藤会長より5月21日～23日に新潟で開催されたアジアフォーラムの報告があり、その後、6月1日に行われた横濱ドラゴンボートレース大会への参加について、ビジネス交流委員長の守永から報告を行いました。盛況の中、野島副会長の閉会の挨拶で会はお開きとなりました。今回は非会員の方に多くご参加いただき、参加者の皆様からは「いろいろな方々と親しくお話してきて有意義でした」などとコメントをいただきました。協会としては今後もネットワーキングに注力していく所存です。



連合会・各協会便り

KANSAI

関西日本香港協会 事務局

2025/9 ● No.110

関西日本香港協会

香港貿易発展局のマーガレット・フォン総裁主催の夕食会

香港貿易発展局のマーガレット・フォン総裁が大阪と香港の業務提携MOU継続調印式参加のため4月15日に来阪され、夕食会を主催されました。香港貿易発展局からベンジャミン・ヤウ日本首席代表、リッキー・フォン大阪事務所長、大阪事務所田中洋三次長、関西日本香港協会から戒田真幸会長、田岡敬造事務局長、吉川裕美特別会員理事（キャセイパシフィック航空）が参加し、梅田の北新地にある和食料亭「福の根 別館」で美味しい和食をいただきながら会話が盛り上がり、楽しい会食になりました。

積極的にお話しされ、意見交換された総裁の明るく、聰明で、フレンドリーなお人柄に触れて、参加者の皆さん大喜びでした。関西日本香港協会の活動状況をマーガレット・フォンさんによく理解していただいたのもよかったです。



マーガレット・フォン総裁主催の夕食会

文化部セミナー昼食懇親会開催

5月9日にレストラン「ロウリーズ・ザ・プライムリブ大阪」で文化部セミナー昼食懇親会を開催し、32名の参加者が有意義なセミナーと美味しい昼食を食べながら、親しく交流しました。会食の前に国内外で活躍中の新会員、シンガーソングライターの海賀千代さんに「音楽に生きる、敬天愛人と仲間たち」と題した30分の講演をお願いしました。「敬天愛人」は敵も味方も愛した西郷隆盛の言葉として有名で、海賀さんは最近『敬天愛人と仲間たち』と題した本を共著出版されました。外資系企業に勤めておられた頃から音楽活動をされ、「宇宙と地球」をテーマに歌うシンガーソングライターになら



文化部セミナー

れました。国内で各地の神社奉納コンサート、海外での大きなイベントで歌っておられます。昨年12月の香港フォーラム、最近では5月21日に新潟で開催されたアジアフォーラム2025で歌われ、香港ビジネス協会世界連盟の米国イベントや9月に関西万博のメインホールでも歌われます。今後の益々のご活躍が期待されます。

セミナーでは、活躍されたイベント等の写真をスクリーンに映されて丁寧に説明され、講演の後に「宇宙と地球」をテーマにされた曲を歌ってくれました。参加者の皆さん大喜びで、最後に記念写真を写して閉会にしました。

アジアフォーラム2025新潟参加

5月21日～23日に新潟で開催されたアジアフォーラムに関西から戒田会長、田岡事務局長等5名が参加し、目標の200名を超える224名の参加者と前夜祭での新潟県を挙げての豪華な歓待（18名の芸子の日本舞踊、和太鼓演奏）、新潟の美味しい地元料理と日本酒で大変盛り上がりました。

5月21日にホテルイタリア軒で開催された前夜祭では、アジアフォーラムに参加したシンガーソングライターの海賀千代さんに「宇宙と地球」のテーマ曲を歌ってもらい、皆さんに喜ばれました。

また、5月22日午前中にホテル日航新潟で開催された国際会議では、戒田会長がスクリーン映像を利用して日本香港協会の紹介スピーチをされました。閉会間際にも、香港貿易発展局のサービスを大いに活用して中小企業の香港ビジネスを支援したいとの意見を述べられました。当日夜の「香港ナイト」ディナーでの香港国際空港管理局のフレッド・ラム会長の説明では、国際空港がビジネスやイノベーションのハブとして発展している様子がよく分かり、印象的でした。



連合会・各協会便り

CHUBU

中部日本香港協会

中部日本香港協会 事務局

新体制発足から1周年をむかえて

2024年5月に新体制の元で発足した中部日本香港協会は、おかげさまをもちまして、1周年をむかえました。香港フォーラムへの参加や香港食品バイヤーとの商談会、春節の新年情報交換会などの様々な活動を通して、会員の結束力が少しづつ高まっています。日頃よりお力添えをいただいているご関係者の皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

2025年7月1日には、ホテルアークリッシュ豊橋にて



新入会員の自己紹介

中部日本香港協会

アジアフォーラム（新潟）参加報告

2025年5月21日～23日にかけて、新潟市で開催された「アジアフォーラム2025」に参加いたしました。日本での開催は2013年の沖縄以来、12年ぶりです。アジア各国や欧米の香港ビジネス協会、香港貿易発展局、日本国内の関係者が一堂に会し、活発な意見交換が行われました。

初日のウェルカムディナーでは、日本各地の香港協会関係者と懇親を深めるとともに、香港・海外への販路開拓や既存ビジネスのイノベーションについて実りある議論を交わし、非常に有意義な時間を過ごすことができました。22日にはインテラクティブミーティングが行われ、各国の代表者より2025～2026年に向けた新たな活動計画が共有されました。特に、若手世代との関係を強化するための施策に力が入っており、各国から創意工夫を凝らしたプログラムが発表されました。2日目の午後と最終日には、新潟市内および魚沼や湯沢への視察ツアーが開催され、地域文化や地場産業への理解を深めるとともに、地域資源、観光資源と地元企業の連携による地域ブランディング、インバウンド対応の取り組みについて学びを深めることができました。

2日目の夜にはHong Kong Nightと題した交流会が開



懇親会で開会あいさつをする越智会長

総会を開催し、会員23名にご参加いただきました。開会挨拶では越智成幸会長から会員の皆様に感謝の言葉が述べられ、この1年間の活動を振り返りました。その後、今年度の事業計画など各種議案の審議を経て、参加者の皆様があたたかな拍手を送る中で全ての議案が承認されました。また、総会では新たに入会した会員の紹介やリッキー・フォン理事による香港最新情報の共有を行い、総会終了後には懇親会を開催して参加者の皆様に交流を深めていただきました。今年度も引き続き、中部エリアにおける香港に対する理解を深め、日本と香港の経済的及び文化的な交流に寄与できるよう努めてまいります。

副会長 蔵野 泰輔

催され、香港空港管理局フレッド・ラム会長による講演や、参加者同士の交流を通じて、香港を軸としたアジア圏内の人的ネットワークの重要性を改めて感じる機会となりました。

中部地方は一部の地域を除いて訪日旅行者の誘致に成功しているとは言いづらい状況だと考えております。今回学んだ新潟の取り組みを参考に、私たち中部日本香港協会としても「魅力ある中部地方」を発信することで日本と香港のより一層の関係強化の一助になれるよう引き続き活動してまいります。





KYUSHU

九州日本香港協会

九州日本香港協会

若き国際人材の架け橋 香港大学生による日本企業インターンシップ2025

2025年7月、福岡の企業と地域に、52名の香港大学生が新たな風を吹き込みました。

「香港大学生による日本企業へのインターンシップ2025」は、九州日本香港協会、香港嶺南大学、香港都會大学、香港恒生大学、香港教育大学の主催、KWSpreadingの主管により実施され、新華基金の協力、福岡市の後援を受けて開催されました。今年は4大学から計52名の学生が参加し、6月30日から7月31日までの約1か月間、福岡を拠点とした16の企業に分かれて就業体験を行いました。受け入れ企業はいずれも、福岡を代表する多様な業種にわたっています。とんこつラーメンを世界に広める食品メーカー、創業72年を迎える老舗百貨店、新たな商業施設を手掛けた不動産開発会社、大手私鉄グループの交通インフラ企業、そして教育、保育、観光、スポーツの分野で活躍する地域密着型の事業者たち。さらにIT・通信、広告、越境EC、再生可能エネルギーなど、新たな成長分野に取り組む企業も参画し、学生たちに多彩な実地の学びを提供しました。

それぞれの企業は、自社の強みや事業特性を活かした独自の課題を提示。学生たちは現場での観察、調査、企画立案、発表といった一連のプロセスを通じて、日本の企業文化や地域社会の仕組みに対する理解を深め、実践的なビジネススキルを磨きました。

実習テーマは多岐にわたり、次のようにカテゴライズされます。

●地域創生・観光振興

福岡市西区、姪浜、小戸、北九州、熊本天草などの地域資源を活用し、観光プロモーション、地域体験型コンテンツの開発、PR動画の制作などに取り組みました。日本の伝統文化（茶道、舞踊、和食）と観光を融合させた企画や、ホテルでの販売促進企画など、地域と世界をつなぐ視点が求められました。

●国際展開・越境EC・新規事業

米国への新規出店戦略、香港・中国市場を対象としたライブコマース、教育サービスの国際比較など、越境市場での可能性調査と実証的な提案が行われました。再生可能エネルギーや多言語対応型サービスの海外展開を模索する課題も含まれました。

●商品開発・マーケティング・PR

健康食品、美容商品、宿泊サービスなどを対象に、市場調査から商品開発、販促計画の立案まで、実践的なマーケティング活動を体験。SNS運用やパンフレット翻訳など、情報発信力と表現力も問われる内容でした。

●教育・保育・幼児向けサービス

保育施設での体験や、日本の乳幼児教育制度の理解、

事務局長 崔 耿美

英語イマージョン教育の効果測定、有効教材の評価、さらには日港間の教育制度比較など、多角的な視点で教育を考える実習が展開されました。

●交通・モビリティ・公共サービス

鉄道会社や公共インフラを持つ企業の事業構造を理解し、観光と交通の連動によるサービス提案や、地域に根ざしたモビリティ戦略についての考察が行われました。

●企业文化・業務基礎

オフィス業務の基礎スキル習得、ビジネスマナー研修、日本特有の「おもてなし」精神の体験などを通じ、日本企業における働き方や協働のあり方についての理解を深めました。

インターン期間中、学生たちは事前にオリエンテーションやビジネスマナー講座、ビジネス日本語授業、プロジェクトマネジメントのワークショップなどを受講。さらに、九州大学、九州産業大学の学生たちとの文化交流を通じて、同世代間の相互理解も育まれました。また、博多人形の絵付け体験、茶道、浴衣着付け、日本舞踊や筑紫舞の観劇といった伝統文化体験も、異文化理解の一助となりました。

そして本プログラムの締めくくりとして、7月31日には福岡市内で最終報告会が開催されました。当日は、16の受入企業に分かれて活動した学生たちがチームごとにプレゼンテーションを行い、約1か月間の経験を振り返りながら成果を共有します。報告会には多数の関係者が出席しました。オンラインでは新華集団Janice Leハノイ代表、香港都會大学Ricky Kwok副学長、香港嶺南大学学生支援局Connie Wong副局长よりご挨拶をいただきました。さらに、香港教育大学Cherry Chongキャリア支援マネージャー、香港恒生大学Winnie Chanシニアキャリア支援担当は、香港から来日し、現地で学生たちに激励の言葉を贈りました。また、当協会の石原会長からは、「このプログラムを通じて、より多くの香港の大学生と日本企業が互いのことを理解し、今後の交流がさらに深まるることを心より願っています」とのメッセージが届けられました。

国境を越えてつながる人と人の出会いが、若者の成長を促し、地域社会の未来をより豊かに彩っていく。このプログラムは、単なるインターンシップの枠を超えた「越境する学び」の実践の場として、今後もアジアと日本をつなぐ人材育成のモデルとして広がっていくことでしょう。



一蘭の森にて企業理解を深めるインターン生Anthony(左)とEdmond



山形日本香港協会 事務局

山形が育む「紅い宝石」と「とろける甘み」 香港を魅了する山形県産フルーツの今

山形が誇る旬のフルーツ、特にさくらんぼの新品種「紅王（べにおう）」と芳醇な香りのメロンが、近年、香港市場で大きな注目を集めているのをご存知でしょうか。今回は、山形県産フルーツが香港へと羽ばたく、その最新の動きと魅力に迫ります。

◆香港へと広がる「山形ブランド」

近年、山形県は高品質な農産物の海外輸出に力を入れています。航空便の発達により、収穫から短時間で新鮮なフルーツを届けられるようになったことが、香港市場開拓の大きな追い風となっています。現地でのプロモーション活動も活発に行われ、試食会やメディアを通じたPRによって、山形県産フルーツの認知度と人気は着実に高まっています。

◆さくらんぼの常識を覆す「紅王」の衝撃

2023年に本格デビューした新品種「紅王」は、これまでのさくらんぼの常識を覆すほどのインパクトで、香港の富裕層や食通たちの間で熱い視線を浴びています。

「紅王」は、その名の通り、まるでルビーのような鮮やかな「紅い」色合いが特徴です。さらに、従来の主力品種「佐藤錦」の約2倍にもなる極めて大粒なサイズ、そして食べた瞬間に口いっぱいに広がる濃厚な甘みと適度な酸味のバランスが絶妙です。まさに「果物の王様」と呼ぶにふさわしい逸品と言えるでしょう。



◆東経連と「九直」連携が拓く山形メロンの道

さくらんぼに負けず劣らず、山形県が誇るもう一つの夏の味覚が「メロン」です。山形県では、昼夜の寒暖差が大きい気候と、生産者の丁寧な栽培技術により、糖度が高く、とろけるような食感のメロンが生産されています。香港市場で人気が高いのは、甘みが強く見た目にも鮮やかな赤肉メロンです。山形県が誇るメロンの中でも、鶴姫レッドメロンやアンデスマロンは全国的に有名で、その濃厚な甘みと芳醇な香りは、香港の消費者にも高く評価されています。

この山形メロンの香港への輸出を強力に後押ししているのが、東北経済連合会（東経連）のバックアップと、九州農水産物直販株式会社、通称「九直」との連携です。通常、東北の団体が九州の企業と連携するのは珍しいこ

とですが、東経連はロジスティクスと商流の重要性を鑑み、東北の農産物を効率的かつ迅速に海外へ届けるためのパートナーとして「九直」



を選定しました。「九直」が持つ広範な流通ネットワークとノウハウを活用することで、山形県で収穫されたメロンが、より新鮮な状態で香港の消費者のもとへ届けられるようになりました。

◆春節セミナーが繋いだタイムリーな情報

今年3月に当協会が開催した春節セミナーでは、東経連の小野事務局参与にご講演いただき、まさにタイムリーな形で海外輸出の現状と課題についてお話を伺うことができました。東北地域の農産物輸出における具体的な取り組み、特に九州との連携による物流の最適化、香港市場の特性、そして今後の展望について、大変示唆に富むお話を頂戴しました。このセミナーでの知見は、山形県産フルーツが香港でいかに評価され、どのような戦略で市場を拡大しているかを理解する上で、非常に貴重な機会となりました。

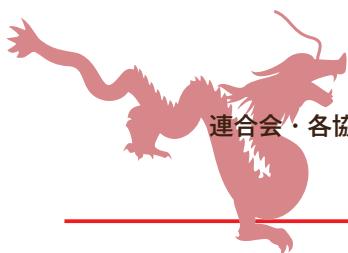
◆データが示す輸出の伸び

山形県が発表している農産物輸出に関するデータを見ると、2023年の香港への農産物輸出額は増加傾向にあります。特に、果物の輸出がその増加を牽引しており、メロンやさくらんぼといった品目が大きく貢献していることが伺えます。例えば2023年度の山形県全体の農林水産物・食品輸出額は16.4億円を突破し、過去最高を記録しています。この背景には、現地の輸入業者や小売店との連携強化、そして香港の消費者の嗜好に合わせた品種選定やプロモーション戦略が功を奏していると言えます。

◆今後の展望

山形県産フルーツが香港市場で成功を収めている背景には、品質への徹底したこだわりと、海外市場のニーズを捉えた戦略、そして東経連のような地域の経済団体や「九直」のような物流・商流のプロフェッショナルとの強力なサポートがあります。しかし、世界にはまだ多くの魅力的なフルーツが存在し、競争も激化しています。今後もさらなる品種改良や生産技術の向上、そして効果的なブランディングとプロモーションが不可欠です。

山形日本香港協会としても、この素晴らしい山形県産フルーツの魅力を香港へ発信し、両地域の経済交流、ひいては友好関係のさらなる発展に貢献していきたいと願っています。



連合会・各協会便り

2025/9 ● No.110

HOKKAIDO

北海道日本香港協会 事務局

北海道日本香港協会

新規法人会員企業ご紹介

今回は昨年10月に北海道日本香港協会の新規法人会員になられました株式会社ニトリパブリックをご紹介いたします。

◆株式会社ニトリパブリック

当社は2005年より広告代理業を開始し、これまでニトリグループの広告をはじめ、一般企業や官公庁の広告宣伝活動および成長戦略を支えてきました。近年では、グローバルに展開するニトリグループの多様なリソースと、広告宣伝で培ったノウハウやスキルを組み合わせ、商品開発、旅行代理業、旅館運営など、広告以外の業務にも積極的に挑戦しております。

旅館運営では、鯉（ニシン）御殿として観光名所にもなっている「銀鱗荘」の運営を行っています。



銀鱗荘

銀鱗荘は、鯉漁で繁栄した猪俣安之丞（いのまた・やすのじょう）が明治後期に建てた鯉漁家建築で、建築素材には、とど松、せん、たも、栗などの高級木材を厳選。正面の腰羽目には、輸送手段も未発達な時代に外国から取り寄せた大形花崗岩を用いるなど、目立たぬ所にまで可能な限りの贅をつくした網元の心意気が伝わります。また、建物内各所に数寄屋建築を意識した意匠やシャレ木、変木を多用。北海道の地域性を意識した独創的なモ



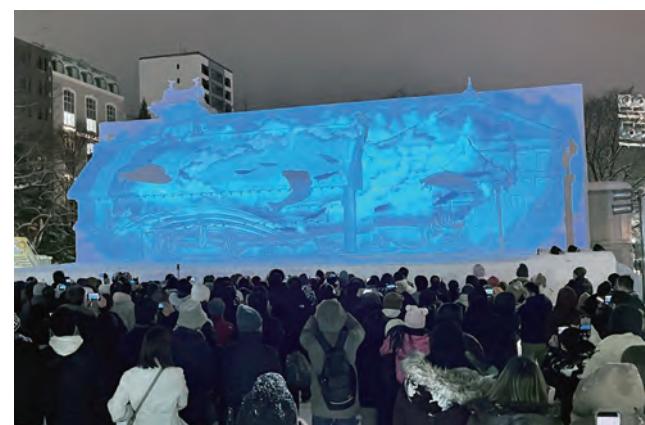
ニトリ香港POPUPブース



Food Expo PRO 2024 (撮影: 広報委員 汪江美子)

チーフや、近代和風意匠も施されており、さまざまな感覚を融合させ、造り上げられたことが伺えます。このように、銀鱗荘は余市・小樽の文化を知ることができる貴重な資源として2023年に国登録有形文化財（建造物）に登録されています。

香港をはじめとした海外からも数多くの方が訪れており、温泉やお食事、景色などをごゆっくりお楽しみいただけますので、北海道・小樽市に訪れる際には是非お立ち寄りください。



雪まつり銀鱗荘プロジェクションマッピング

また、新たな事業への参入として、北海道産品を中心とした食料品の海外輸出の本格化など、幅広い事業を手掛けることで、新たな価値創造を提供しています。北海道産品の海外輸出では、中華圏や東南アジア中心に展開をしています。その中でも香港では、香港ニトリ店舗（Hopewell Mall店）において、北海道物産展を開催している他、農産物や加工食品を中心に香港の小売スーパーやFood Expoでの催事販売等を実施しています。今後も当社では香港向け食品輸出に重点的に注力してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



MIYAGI

宮城日本香港協会 事務局

宮城日本香港協会

2025総会・セミナーを開催

5月14日16時から宮城日本香港協会の通常総会、そして17時からは宮城県食品輸出促進協議会との共催によるビジネスセミナーをTKPガーデンシティPREMIUM仙台西口7階に於いて開催しました。宮城県、仙台市、仙台商工会議所からご来賓を迎える、約70名の参加者を得て盛大に開催することができました。

総会では小野寺会長の挨拶の後審議に入り、提案議題すべて満場一致で承認をいただきました。



経済商工観光部・菅原国際ビジネス推進室長の講演

セミナーではまず、「宮城県工芸品の香港市場開拓について」と題して宮城県経済商工観光部の菅原正義国際ビジネス推進室長よりご講演をいただきました。宮城県では、県内事業者の海外展開を後押しすることを目的として、香港の実店舗において県産の工芸品やデザイン雑貨のテストマーケティングを行い、販路開拓の支援や海外展開に関する事前セミナーの開催、現地消費者に向けたPR・情報発信、販売実績やアンケート結果の分析・フィードバックを行っており、今後はECサイトの活用、ワークショップの実施、現地デザイナーとの連携なども視野に入れ、さらなる展開を目指しているとのことでした。

続いて、「日本の伝統工芸と香港デザイナーのコラボレーション」と題して、ヒンテグロ創始者キース・チャン氏よりご講演いただきました。香港では日本文化への関心が高く、年間5兆円を超える輸入があるほか、建築資材や伝統工芸、アニメ・映画などのコンテンツまで幅広く浸透しているとのことです。チャン氏は日本の建材を取り入れた住宅や店舗の設計に携わり、デザイン賞の受賞経験があり、伝統工芸品を扱う店舗の運営や、宮崎県での木材視察・展示活動など、日本と香港をつなぐ様々な取り組みを進めていることについて、お話しいただきました。

最後に香港貿易発展局の伊東正裕東京事務所長より、香港の最新概況やお知らせについてご説明をいただき、幕を閉じました。参加者一同、今回のセミナーを通じて、香港の魅力や可能性を改めて実感いたしました。日本文化への深い理解や高い関心に触れ、大きな刺激を受けるとともに、今後の海外展開に向けた多くのヒントや学びを得ることができました。日本と香港の繋がりの強さや広がりも感じられ、大変有意義で貴重な時間となりました。改めて香港の素晴らしさに感銘を受けた次第です。

その後、会場を変えて懇親会に移行し、宮城県食品輸出促進協議会の久保田副会長の挨拶、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表による歓迎の挨拶の後、宮城県経済商工観光部千坂守副部長、仙台市経済局の荒木田理産業政策部長による、宮城県知事・仙台市長からの祝辞をそれぞれ代読、宮城県議会外崎浩子議員による乾杯で始まりました。

美味しい食事を前に、沢山の方々との会話で盛り上がり、楽しい時間もあつという間に過ぎました。最後に当協会副会長である株式会社JTB仙台支店の鈴木雅之営業担当部長による閉会の挨拶で終了しました。



宮城県食品輸出促進協議会久保田副会長の挨拶



香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表





OKINAWA

沖縄日本香港協会 事務局

沖縄日本香港協会

香港の小学生との交流会を開催

宜野湾市立はごろも小学校の6年生約140名は、夏季休暇を利用して沖縄を訪れた黄大仙カトリックスクールの小学生18名と交流を行いました。今回の交流は、はごろも小学校の英語専任教諭の新屋慎子先生の友人が香港の日本人学校に勤務されていたご縁で実現しました。また海外からの修学旅行の受け入れを推進している沖縄観光コンベンションビューローの協力も受けました。

はごろも小学校の児童は、英語の授業の時間に、香港の概略や歴史について学習し、また香港の児童にお土産として送る折り紙、メッセージカードを作成すると共に、香港の児童がツアーで訪問する沖縄の観光地などについて改めて学習する等の受け入れ準備を行いました。

交流のプログラムとしては、香港側・沖縄側がそれぞれの学校紹介を英語で行った後、黄大仙カトリックスクールの児童は賛美歌を、はごろも小学校の児童はダンスを披露、交流を盛り上げました。その後グループに分かれて、英語で自己紹介を行ったあと、黄大仙カトリックスクールの児童が訪れる沖縄の訪問地について、地元の児童ならではのアドバイス・意見交換を行い、その後、校内の施設を見学ツアーに参加後、琉球料理の献立の給食と一緒に取りましたが、香港の児童たちも美味しいと食したことです。

沖縄の児童は「英語で自分の思いを伝えられて嬉しかった」「沖縄の良さを伝えられて満足」「最初は緊張したが、香港の皆の笑顔を見て安心した」などの感想を述べており、香港と沖縄の小学生同士の交流は、短い時間ではありますが大変有意義なものとなりました。

沖縄県の香港からの入域観光客は、台湾、韓国に次いで3番目ですが、地震への懸念とされる風評被害が、沖縄でも散見される中、小学生の交流が行われたことは非常に意味深いものがあると考えます。香港の児童が、沖縄の児童との交流を通して、改めて沖縄の文化や自然の魅力を理解してもらい、将来沖縄の良き理解者になって頂くことを期待します。



黄大仙カトリックスクールとはごろも小学校との交流

アジアフォーラム in 新潟に参加

2025年5月21日から23日にかけて、新潟市で「アジアフォーラム2025」が開催され、沖縄日本香港協会から



沖縄協会のアジアフォーラムin新潟の参加者

も金城克也会長や國場幸一元会長をはじめ7名が参加いたしました。このフォーラムは、世界中の香港ビジネス協会の関係者が集まり、情報交換や交流を深めるもので、日本での開催は沖縄での開催以来実に12年ぶりとなりました。新潟は米どころ・酒どころとして知られており、フォーラムの期間中、参加者たちは新潟の食文化や地酒、観光資源の魅力に改めて触れる機会となりました。

フォーラムでは、香港空港管理局のフレッド・ラム会長による香港国際空港の第3滑走路の運用開始に伴う中長期構想についての基調講演や、アジア各国の香港協会からの活動について報告がありました。香港ビジネス協会世界連盟デニス・チュー副会長は「新潟は間違いなく価値がある場所」と評価し、新潟日本香港協会吉田至夫会長も「食という強みを世界へ発信したい」と語りました。

エクスカーションでは、新潟市内の今代司酒造の酒蔵や旧斎藤家別邸の美しい日本庭園を訪問、新潟の食と文化に触れる機会を楽しみました。



旧交を温めるフレッド・ラム会長と國場元会長

首席代表は「多くの人が新潟を知れば、香港との経済や観光面でも新たな拡がりが期待できる」との期待が示されました。交流イベント「香港ナイト」では、新潟の美味しい食・酒が提供され、参加者の交流が更に深りました。

今回のフォーラムでは、新潟の地域や日本各地の魅力を海外に発信する重要性が再認識され、香港をはじめとするアジア各国との新たなつながりやビジネスチャンス、文化交流の拡大につながるきっかけとなったと強く感じられました。今後もこのような国際的な交流イベントを通じて、新潟のみならず香港協会が設立されている地方都市と香港の経済・文化交流の活性化が進むことが期待されます。



連合会・各協会便り

HIROSHIMA

広島日本香港協会

事務局 三浦 博恵

広島日本香港協会

香港マーケットイン型食品商談会①

令和7年4月21日、広島日本香港協会の事務局である公益財団法人ひろしま産業振興機構が主催し「マーケットイン型食品商談会（香港）」を実施いたしました。

この商談会は、香港バイヤーの新華日本食品有限公司／西村料理集団が広島を訪問・滞在する機会に広島県内の食品関連企業との商談をしたいとの提案があり、実現したものです。この商談会はバイヤーに予め関心のある商品を選んでいただき、商談をセッティングするマーケットイン型で行いました。

新華日本食品は1997年以来、香港への日本食品の輸入に取り組むとともに、本格的日本レストラン「西村日本料理」や水産品などを中心とした小売店「九號水產」を経営されており、今回、蔡代表取締役に遠路、広島までお越しいただき、食品関連企業6社と会場で直接商談を行っていただきました。会場では、その場でトントン拍子に商談がまとまりそうな企業や、逆に、現在の香港市場について説明され、厳しい現実を突きつけられる企業もあり、今後、香港市場への展開に向けて具体的な改善に繋げていただければと思いました。



マーケットイン型商談会（4月）

香港マーケットイン型食品商談会②

同じく、公益財団法人ひろしま産業振興機構主催により、令和7年6月20日にも「マーケットイン型食品商談会（香港）」を実施しました。

今回は香港から、バイヤーとして弘略（香港）有限公司の張徳路CEOにお越しいただきました。同社は親会社にGood View Development Group Limitedを持ち、Wellcome Store、PARKnSHOP、YATA スーパー、7-Eleven、AEON、DON DON DONKI、華御結、A-1 Bakery、city'super等を販売先として持っています。大阪からは物流会社NAX JAPAN株式会社の北野将大氏にもお越しいただき、県内企業5社が参加しました。

バイヤーは、この後、香港に戻って、顧客に提案して

いくとのことでした。交渉の結果次第では、広島の商品が香港の店頭に並ぶ日もそう遠くないかもしれません。



マーケットイン型商談会（6月）

アジアフォーラム 2025 in 新潟

「アジアフォーラム 2025in新潟」が令和7年5月21日～23日に新潟の朱鷺メッセを中心に開催され、広島日本香港協会からは6名が参加しました。広島から新幹線と飛行機を乗り継ぎ、約6時間かけてはるばる到着した新潟の地。さすが米どころは、田園風景が広がっていて、我々が住む広島とは風景が全く違いました。

前夜祭、ランチョンミーティング、交流会と、新潟日本香港協会の方々から様々ななおもてなしを受け、香港の方や香港に関係する方達と交流を図ることができました。

また、視察会では酒蔵見学や貴重な古い住宅の見学があり、新潟に触れる貴重な機会となりました。交流会では、世界各地から約200人の参加があり、さまざまな余興等も繰り広げられ、参加者全体で大変盛り上がりました。

アジアフォーラムを通して、香港に対しての理解もより深まり、広島からの参加者も満足度が高かったこと思います。開催にご尽力いただいた新潟の事務局の方、関係者の方々に心より感謝申し上げます。



アジアフォーラム 2025 in 新潟



NIIGATA

新潟日本香港協会

事務局 川端 亜紀子

新潟日本香港協会

「アジアフォーラム 2025 in 新潟」 開催にあわせて 通常総会を挙行

2025年5月21日、同日開催されたアジアフォーラムに先立ち、16時から「通常総会」および「講演会」を開催いたしました。年に一度、会員が集まり活動報告と今後の方針を共有する重要な場となる通常総会と、国内外の情勢や業界動向を学ぶための講演会、また、その後のアジアフォーラムの開催を一体的に行うことで、協会活動の理解と参加を促進する機会となりました。

本稿では、当日の模様を報告いたします。

◆通常総会の開催と議案承認

16時より開催された通常総会では、吉田至夫会長が開会挨拶、および議長選出を受け、議事が円滑に進行されました。今回は以下の議案が上程され、すべての議案が承認されました。

第1号議案 2024 年度 事業報告

第2号議案 2024 年度 収支報告、監査報告

第3号議案 2025 年度 事業計画（案）承認の件

第4号議案 2025 年度 収支予算（案）承認の件

各議案においては、事務局より詳細の説明が行われました。事業報告では、過去1年間に実施された会議、会合、セミナー、国際交流事業などが紹介されました。今年度は、「アジアフォーラム 2025 in 新潟キックオフミーティング&決起集会」を開催し、ホスト協会として会員の士気を高めました。また、2月、3月には、吉田会長、大島事務局長による、各都道府県の10協会への春節イベントの参加・訪問や香港経済貿易代表部主催の「春のレセプション 2025」へ参加を行い、「アジアフォーラム 2025 in 新潟」の広報活動を実施する等、各方面へ周知を図った事も報告されました。



通常総会（吉田会長の挨拶）

◆通常総会後 香港の今とビジネスチャンスを読み解く 講演会の開催

通常総会終了後の16時45分より、講演会が開催されました。今回は、日本貿易振興機構（ジェトロ）より高島大浩理事を講師にお迎えし、「激化する米中対立下で、香港とどう向き合うか」というテーマでご講演いただきました。

講演では、まず国際社会における米中関係の現状について概説がありました。米中間の緊張が続くなかで、貿易やテクノロジー分野だけでなく、安全保障、人的交流など多岐にわたる分野で影響が広がっていることが具体

的なデータとともに紹介されました。その上で、香港における政治的・経済的変化が、どのように日本企業の事業展開に影響しているかについての分析が行われました。特に、従来から「アジアのゲートウェイ」として重要な役割を担ってきた香港が、政治的な転換期に直面しつつも、香港は依然として「中国と世界をつなぐ玄関口」としての地位を維持しています。



日本貿易振興機構・高島理事の講演

◆日本企業にとっての今後の可能性

講演の後半では、日本企業がこのような国際環境の変化をどのように受け止め、どのように対応していくべきかという観点のヒントをいただきました。

香港は、日本の農林水産物および食品にとって非常に重要な輸出市場です。香港では日本食の人気が高まっており、日本食レストランの数は増加の一途をたどっています。地元消費者の間で「安心・安全・高品質」のイメージが定着しており、日本食材の需要が安定的に成長していることがうかがえます。加えて、香港からの対日直接投資も増加傾向にあり、2021年にはその総額が1.3兆円を超えたそうで、これは、香港の企業や投資家が日本市場に対して強い関心と期待を寄せていることの証しといえるでしょう。特に観光・不動産などにおいて、さらなる連携の余地が存在しているかもしれません。

さらに、「変わらぬ香港の役割と多様性」という観点から、特に中小企業にとっても香港が持つ自由貿易港としての強み、英語圏との橋渡し役、アジア地域における法制度や金融制度の整備の点で今なお有望なビジネス基盤であると理解しました。

本講演会では、急激に変化する国際情勢の中で、香港という都市が依然として持つ価値と、日本企業にとっての位置づけについて、多面的な視点からの分析がなされました。参加者からは「ニュースでは伝わりづらい国際情勢の背景がよく分かった」「自社の事業戦略を見直す上で非常に参考になった」といった声が多く聞かれ、関心の高さがうかがえました。

また、アジアフォーラム本編への導入としても、本講演は非常に意義深く、グローバルな視点と地域的な文脈を結びつける貴重な学びの機会となりました。

ご多忙の折、ご参加いただいた皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後とも、皆様の積極的なご参加とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。



KOCHI

高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

高知日本香港協会

新会長就任

暑い日が続いますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

高知協会においては、去る7月4日に2025年度通常総会が無事に開催され、事業報告、決算報告並びに、新年度の事業計画、予算案が可決されました。

会員数においては、コロナを経て減少に転じており、その後は横ばいとなっております。今後は会員増強にも力を注いでいく所存であります。

そんな折ではありますが、今年度より森本麻紀前会長から松田高政新会長へと役員改選がなされ、新体制となりました。

森本前会長在任中は、全国の協会会長をはじめとします、会員の皆さんには講師依頼を賜ったり、各地へ訪問する際にも一方ならぬ歓迎をいただき、心より感謝を申し上げます。香港フォーラムでは3度にわたるAWARDを受賞し、活発的な活動



松田高政新会長

ができました。また高知協会会員数も創業当時の3倍に増員するなど、その手腕を如何なく發揮され協会発展にご尽力をいただいたことを、この場をお借りしてご報告させていただきます。

本総会の2部では、森本前会長より、今までの軌跡を会長報告として発表され、会長就任から退任までの歴史を振り返りながら、ユーモアに包まれた報告となり、惜しまれつつも感謝に溢れる時間となりました。

そして副会長として前会長を支えてこられた松田高政氏が新たに会長に就任されたので、以下、新任にあたっての会長所信をご紹介させていただきます。



森本前会長の報告

松田新会長就任に伴い、新しい会員様も入会いただいております。

松田新会長においては、6次産業化のプロフェッショ

このたび、高知日本香港協会の会長を森本前会長から引き継ぎ拝命いたしました。

平成28年6月1日に四国初となる高知日本香港協会が設立され、初代小川会長、前森本会長を中心に活発化させた本協会の活動をさらに発展させるべく、誠心誠意努めてまいります。

特に前会長のリーダーシップのおかげで、香港の人たちの人脈・ネットワークが数多く形成され、香港との縊が強くなりました。その歩みを大切にしつつ、次世代へとつなぐ新たな交流のかたちを模索してまいりたいと考えております。

これから、現会員の皆さまとの連携を大切にしながら、新たな会員の拡大、高知及び四国の強みを活かした文化・貿易・インバウンド交流などを推進して、香港との縊をより一層深めていければと思っています。

これから様々な企画を通して、会員の自主的な活動もサポートして参ります。今後とも、高知日本香港協会にご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

高知日本香港協会
会長 松田 高政



2025年度総会懇親会 香港料理を堪能しました。

ナルとして全国的に活躍されており、新しい流通、食品開発、新商品のプロデュースなど幅広く活動され、香港への高知の食材の輸出を手掛けられており、また全国に数人しか取得されていない狭き門、国家検定「食の産業化プロデューサー」レベル6を取得するなど、本協会にとっても今後、さらなる活性化が期待できます。

全国の会長をはじめ、会員各位の皆さんにおかれましても、森本前会長に引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まだまだ暑い日が続いますが、協会の皆さん方におかれましても、くれぐれもご自愛いただきますようお祈り申し上げます。



飛 龍

URL <https://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 ト拉斯ティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

NPO法人日本香港協会（東京） 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 ト拉斯ティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中部日本香港協会 電話 (0533) 77-2468
〒441-0304 豊川市御津町佐脇浜3号地1-27 株式会社平松食品内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
株式会社 Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ4階
ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-1250
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オルトル内

東京にいながら
香港本場の味をお楽しみ頂けます

香港の名店「喜記」の日本一号店。

避風塘料理を中心に焼物・点心・海鮮・麺飯・デザートまで

香港の名物料理を幅広くご用意しております。

本場で修業した熟練のシェフがお作りする料理を
ぜひ心ゆくまでご堪能ください。

喜記

HEIGEI



〒104-0061 東京都中央区銀座5-7-10 EXIT MELSA 7F
東京メトロ銀座駅A2出口より徒歩2分・JR有楽町駅より徒歩7分

平日 【LUNCH】 11:30~15:00 (LO 14:30)

【DINNER】 17:30~22:00 (LO 21:30)

土日祝 11:30~21:00 (LO 20:30) ※17:30よりディナー対応

HP



Instagram



ご予約・お問合せ 050-3173-1505

Coupon

ディナーコースを 15 % 割引

・2名様以上のご利用が対象です。

・ご注文の際に本冊子をご呈示ください。

・有効期限 2026.1.31